

先週の礼拝メッセージ(2021年10月17日) ベン牧師

「神の知恵」 エフェソの信徒への手紙 3:1、10~13

神の救いのご計画は、ユダヤ人だけではなく全世界のすべての人が救われることでした。このご計画は、秘められたものでありましたが、イエス様がこの地に来られ、十字架にかかれてはっきりと示されたのです。

福音は弟子たちによって全世界に宣べ伝えられ、私たちも含め異邦人がユダヤ人と共に救いに預かる者、神の民となりました。今私たちは、イエス様によって大胆に神に近づくことができるのです。

今日の箇所パウロは、これらのことはすべて神の知恵によってなされたことだと熱く語っているのです。彼の語る熱量は半端なものではありません。なぜなら、生粋のパリサイ人で、異邦人を見下し、異邦人が神を知ることなどあり得ないと思っていたパウロにとって、異邦人が神をほめたたえ、自らも異邦人伝道へと召されたということ自体が、まさに驚くべきことだったからです。

神はなんと素晴らしいことをなさったんだ、あり得ないと思っていたことが今現実には起きているという、彼の驚きと感激がこの文に溢れているのです。そして、神の知恵は、私たちの人生をも動かして、神のご計画を進めてくださっているのです。

3:1は、「あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているわたしパウロは……。」という言い方をしています。

彼が捕らえられたのは、他でもない異邦人に福音を伝えているからです。正統派ユダヤ人にとって、異邦人に神のことを語る者など、生かしておいてはならないということなのです。

だから、ほとんどが異邦人であるエフェソの教会の人々のゆえに、自分は捕らえられているのだと言っているのです。しかしパウロは続けて語ります。

「あなたがたのためにわたしが受けている苦難を見て、落胆しないでください。この苦難はあなたがたの栄光なのです。」
(13節)



神様のご計画は、
神様のスケジュールに沿って
進められる。

エフェソ教会を立ち上げるために労したパウロが、今その働きのゆえに捕らえられているということは、人間的に考えると落胆する出来事です。しかしパウロは、神の知恵の素晴らしさを語り、落胆しないようにと云うのです。

「私が牢屋に繋がれていること、苦難にあっていることは、エフェソ教会の栄光なのだ。神の知恵によるご計画に中にあることなのだから」とエフェソ教会の人を励ますのです。

かつてのパウロにとってあり得なかった、異邦人の救いを実現してくださった神様は、自分が牢屋に入っているとか、迫害があるとかというレベルのことで動じるようなお方ではない、神の御計画は着々と進められているのだと、熱く語るのです。

人間には先が見えないので、「想定外」ということがあります。しかし神には想定外はありません。ルービックキューブというものがありますが、バラバラの色の六面体を一面が同じ色になるように六面とも合わせるというものです。神様は、六面体どころではない、すべてのことをあい働かせて美しい人生を作り上げてくださるのです。パウロが牢屋にいても、神の知恵によるのであれば、何ひとつ心配することはないのです。それどころか、喜び感謝するべきことなのです。

私たちにも同じことが言えます。健康、仕事、様々な問題の中に置かれた時、「なんで？」と嘆く必要は全くありません。そのことも神の知恵によるご計画の中にあるからです。神の知恵は壮大です。人間のはかりごとを超えているのです。どんなに追い詰められ、ピンチであっても、神の大逆転があるのです。

道が開かれようが、閉ざされようが、そこに神の知恵とご計画があると信じるなら、落ち込む必要もありません。

救いから遠く離れていた、異邦人の私たちが救われた、パウロが最大の熱量を持って語るほどに素晴らしい恵みに預かっている私たちです。神にはご計画があるのです。それは神の知恵によって、私たち一人一人に用意されているのです。目を上げて主を仰いでいきましょう。